

事務事業名		越喜来中学校線(逢野橋)改良事業				☒ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間		予算科目						
	施策名	良好な生活空間の創造						会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	生活道路の整備												
根拠法令						☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度(計画期間) ↓平成22 年度～平成24 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01 08 02 03 31						
所 属	部課名	都市整備部建設課												
	係 名	土木係	電話	0192-27-3111	内線			316						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
本橋梁は、三陸町越喜来地区の市立越喜来中学校前に位置し、二級河川浦浜川にかかる橋梁であるが、中学校への通学路であるとともに地域住民の利用も多い。しかし、既設の橋梁は歩道が無い5.0mの幅員であり、歩行者の安全な通行が確保されていないことから、歩道を整備し利用者の安全な通行を確保するものである。 平成22年度は測量調査設計を実施し、平成23年度に補償業務(橋梁に添架している簡易水道管移設)を行い、平成24年度に完了の予定であったが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興事業を最優先と考え、事業を一時休止する。 事業費は、委託料、補償金、工事費として支出される。 橋長18.8m、計画幅員7.0m(車道5.0m+歩道2.0m)										総投入量(千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	108,474
													都道府県支出金	
													地方債	68,600
													その他	
													一般財源	3,717
													事業費計(A)	180,791
人件費	正規職員従事人数	2												
	延べ業務時間	776												
	人件費計(B)	3,104												
	トータルコスト(A)+(B)	183,895												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 測量調査設計(橋梁)		名称	単位
		ア 整備率(施工済延長/計画延長)	%
		イ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 一時休止のため無し		ウ	
		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		名称	単位
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 逢野橋 (逢野橋)利用者		カ 計画延長	m
		キ 主たる利用者数(周辺の行政区人口(行政区名:浦浜仲))	人
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) (逢野橋に)歩道が整備される (逢野橋利用者に)より安全に通行してもらう		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	単位
		サ 施工済延長	m
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全で快適に移動できる		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					10,074
		都道府県支出金	千円					6,300
		地方債	千円					417
		その他	千円					16,791
		一般財源	千円	0	0	0	0	0
	人件費	事業費計(A)	千円					
		正規職員従事人数	人					2
		延べ業務時間	時間					128
		人件費計(B)	千円	0	0	0	0	512
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	17,303
⑤活動指標	ア	%						0
	イ							
	ウ							
⑥対象指標	カ	m						18.8
	キ	人						397
	ク							
⑦成果指標	サ	m						0
	シ							
	ス							

事務事業ID	1234	事務事業名	越喜来中学校線(逢野橋)改良事業
--------	------	-------	------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	歩行者の安全な通行の確保を図るため、平成22年度から事業を開始した。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	地域の理解が進み、協力的になった。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	地域から、早期完成を強く要望されている。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価		
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 ☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] 歩道を整備することにより、利用者の安全な通行が確保されることから、都市環境の向上につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] 公共施設の橋梁(道路)整備は、行政が行うことが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] この事業により利用者が安全に利用できるようになるため、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] 歩行者の逢野橋通行時における交通事故の危険解消を目的としていることから、これ以上の成果向上の余地が認められない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 逢野橋を利用する歩行者の交通事故の危険が、解消されない。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 個別事業であり、他に手段はない。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 必要最小限の費用で実施していることから、削除の余地はない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 必要最小限で対応していることから、削除の余地はない。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 一般に供する橋梁(道路)であることから、受益者負担になじまない。

事務事業ID	1234	事務事業名	越喜来中学校線(逢野橋)改良事業
--------	------	-------	------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	良好に事業実施がなされた。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☒ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☐ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興事業を最優先と考え、平成24年度は休止とする。		☐ 廃止	☒ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☒ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																			
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																							
		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者

建設課長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|----------------------------------|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

良好に事業実施がなされた。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)

- | | | | | |
|---|--|--------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 廃止 | ☒ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☐ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |
- (上記方向性に対する具体的な内容)
- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災により事業箇所の周辺が被災したことにより、復興計画等を考慮し事業を進めていく必要があるため、平成24年度は休止とする。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項